

JA全農ウィークリー

4
|
5
面

全農とJTＢの連携協定 山形県本部で成果 労働力支援 他産地や他企業とも連携し取り組み拡大（山形県本部）

8面

全農杯2022年全日本卓球選手権大会
(小学生以下の部)に特別協賛(広報・調査部)



全日本卓球選手権大会表彰式で安田専務から
女子選手へ副賞を贈呈(8面)



岡山県本部を訪れた桑木選手(左)と伍賀弘県本部長(3面)



九州の働き手やJAL社員らが山形県でサクランボの収穫・出荷調製などを支援(4-5面)

2 第21回パワフルアグリフェアを開催 (栃木県本部)

とやま和牛「酒粕育ち」がデビュー
(富山県本部)

3 地元出身・桑木選手と サプライヤー契約締結(岡山県本部)

全農東北プロジェクト「東北フェアin仙台」を開催(全農東北プロジェクト)

ニッポンエール「とろとろ半熟煮たまご」
新発売(JA全農たまご株・営業開発部)

6 プロフェッショナルを追う(9)
営農・技術センター農産物商品開発室
大内晴生さん(広報・調査部)

7 JAズームイン(福島:JA東西しらかわ)

8 JAタウンショップ紹介

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから

Web
限定

**JALコラボ企画「2022いわて純情むすめ」
 接客研修(岩手県本部)**

スモモ「貴陽」の園場からライブ配信で販売
(山梨県本部)

岐阜商業高等学校へ県産農畜産物を贈呈
(岐阜県本部)

News!



第21回パワフルアグリフェアを開催

持続可能な農業の実現に向けて

栃木県本部

栃木県本部は7月16、17日の両日、宇都宮市内でJAグループ栃木の総力を結集した農機展示会「第21回パワフルアグリフェア」を万全な感染症対策の下で3年ぶりに開催しました。

今回は「生産振興とJAグループへの結集を図り、持続可能な農業を実現します」をテーマに開き、2日間で4000人を超える方々に来場いただきました。

メインとなる農業機械の展示・実演コーナーではメーカー各社の最新農機が並べられ、中でも目玉となる「JAグループ共同購入トラクター」「JAグループオリジナル型式」や最新技術を搭載したロボットトラクター・実演コーナーでは

「資材価格高騰といった厳しい状況下で生産者支援につなげる」とあいさつしました。



ドローンの説明を聴く来場者



注目を集めたJAグループ共同購入トラクター

News!



とやま和牛「酒粕育ち」がデビュー

県や関係機関と連携し、富山の新たなブランド牛をPR

富山県本部

富山県本部は7月19日、新ブランド「とやま和牛」酒粕育ちのデビューにあたり、県や関係機関と名称・ロゴデザイン発表会を開催しました。県内飲食店の有名シェフによる料理が振る舞われ、参加者や報道機関に向け「酒粕育ち」のおいしさをPRしました。

この取り組みは、令和2年度から県、県酒造組合、県肉用牛協会と連携し、富山の地酒造りの過程で生まれる酒粕を牛に給与してブランド化を目指したものです。県が実施した肉の官能評価調査では、県外産の和牛と比較し「ジューシーで柔らかく、脂の甘味が強い」という評価をいただいています。発表会では、県内飲食店

の有名シェフである小室徳幸シェフ、桃井勉シェフ、毛利義信シェフによる「酒粕育ち」を使用した料理を来賓に振る舞い、そのおいしさを実感していただきました。7月25日から県内の精肉店や飲食店で取り扱いが始まっており、富山県本部では今後さらなるブランド力アップに向けて取り組みを進めていきます。



富山県本部運営委員会の細田勝二会長によるあいさつ

「酒粕育ち」の
詳しい情報はこちら



酒粕育ち
とやま和牛
TOYAMA WAGYU

「酒粕育ち」のロゴマーク



地元出身・桑木選手とサプライヤー契約締結

大学生プロゴルファーを“食”で応援

岡山県本部

岡山県本部を訪れた桑木選手（左）と佐賀弘真部長



岡山県本部は、岡山県出身の大学生プロゴルファー桑木志帆選手とサプライヤー契約を締結しました。今後は、定期的に県産農畜産物を提供することで、全国を飛び回る桑木選手を栄養面からサポートしていきます。

7月15日に桑木選手が岡山県本部を訪れ、現在の活動状況を報告。県本部より産地直送通販サイトJAタウン「おいしいおかやま」で使用できるギフトカードを贈呈しました。桑木選手は、「幼い頃から、岡山の農畜産物を食べてきたおかげで、丈夫な体に育ちました。これからも地元の食材を食べて、優勝に向けて頑張りたい」と話しました。

岡山県本部は、桑木選手に県産農畜産物を提供し、選手を“食”で応援するとともに、県産農畜産物のPRに努めます。



全農東北プロジェクト「東北フェアin仙台」を開催

仙台で東北の特産品・果物・花を紹介

全農東北プロジェクト

「東北フェアin仙台」の特設コーナー



全農東北プロジェクトは7月に宮城県仙台市の「農産物直売所たなばたけ高砂店」と「アクアイグニス仙台マルシェリアン」で「東北フェア」を開催しました。

「たなばたけ」は新鮮な農産品を求め、地域の方が多く訪れるJA仙台グループの直売所です。「アクアイグニス仙台」は仙台東部沿岸地区に位置し、観光客も訪れる癒やしと食の複合施設です。

両店舗で東北の農産物を使用した特産品や旬の果物などを販売し、「東北」の魅力と情報を発信しました。新たな商品もそろえた2店での初の東北フェア開催を記念し、東北六花を販売する（株）シフラが

丁寧にラッピンクした東北産の花を計340人へプレゼントしました。



ニッポンエール「とろとろ半熟煮たまご」新発売

9月1日から全国のスーパーやドラッグストアなどで販売

JA 全農たまご(株)・営業開発部



9月1日から新発売するニッポンエール「とろとろ半熟煮たまご」

従来品から半熟具合をさらに向上させ、「ラーメン屋さんの煮たまご」のような半熟具合を目指して、黄身がとろとろになるように仕上げました。また、鹿児島県枕崎製造のかつお節で作るエキスを使用したこだわりの味付けで、甘味を抑えて、薫香感を加えています。

好きなラーメンにトッピングして華やかに、豚バラ肉で包んで焼きあげれば肉巻き卵など、用途もさまざまです。2個入り（スタンドパック）と5個入り（ピローパック）で、全国のスーパー、百貨店、ドラッグストアなどで販売します。

JA全農たまご(株)と営業開発部は、ニッポンエールブランドで「とろとろ半熟煮たまご2個入・5個入」を9月1日から発売します。

全農とJTBの連携協定 山形県本部で成果

労働力支援 他産地や他企業とも連携し取り組み拡大 農業現場が抱える課題解決目指す



初めてのサクランボ収穫に慎重に取り組む
(株)菜果野アグリ福岡の方々



サクランボの収穫方法を教わる九州からの参加者



サクランボの選果・パック詰めをする
「JALふるさと応援隊」



「サクランボの収穫は初めて」という「JALふるさと応援隊」の2人

全農と(株)JTBは2021年4月1日、農作業を担う多様な人材の確保を目指し、農業労働力支援事業に関する連携協定を締結しました。山形県本部は同年6月、全国に先がけて事業を開始し、一定の成果をあげました。2年目を迎える今年は、九州ブロックや企業との連携にも挑戦し、さらなる取り組みの拡大と農業現場が抱える課題解決を目指します。

【山形県本部】

全国に先がけてスタート 多様な人材が活躍

2021年は9県域でトライアル的に実施された農業労働力支援事業。山形県本部では6月に行われたサクランボの収穫をはじめ、キュウリの出荷調整、西洋梨「ラ・フランス」の収穫など、5つの作業で延べ654人の支援実績となりました。

参加者の内訳を見ると、女性が全体の約7割を占め、年代別で

は10代から70代まで幅広い世代が活躍する結果となりました。また、1日単位で参加できることから、子育て世代や学生、シニア層やフリーターなどのほか、副業としての参加も多く、多様な人材が集まりました。

山形県本部では、この需要がコロナ禍による一時的なものではなく、地域活性化や女性活躍、生活困窮者支援にも貢献し、地方創生にも寄与できる、持続可能な取り組みになりえるとして、確

●産地間の連携について

参加した
(株) 菜果野アグリ福岡の
久保恵利 統括部長



「サクラランボの収穫は初めてでしたが、九州で生産が盛んなミニトマトの収穫と通じるものがありました。地元での農作業経験を生かして他産地の助けになれることがうれしかったです。産地同士が連携し、お互いの繁忙期を支援する取り組みは、これからますます需要が高まると思います」

生産者のたきぐちファーム
滝口征司 代表取締役



「初めてとは思えないほど手早く確実な作業で心強かったです。県内の人手が足りなくなることは目に見えて分かる状況なので、こうして県外から支援してもらえるのは非常にありがたい。どんどん拡大させていってほしいです」

●企業間の連携について

参加した
「JALふるさとアンバサダー」の
高瀬雅子さん



「普段の客室業務と同じく、体力と繊細さが求められました。農業の楽しさだけでなく、その苦勞も実感し、改めて生産者の方々には頭が下がる思いです。今後お客さまとお話する際には、今日の経験も交えながら、山形県と山形県産サクラランボの魅力を発信したいと思います」

生産者の
鈴木克也さん



「サクラランボを収穫しきれないこともあったので、今回は本当に助かりました。この取り組みは、われわれ農家にとっても魅力的ですし、人手不足の課題解決につながる大きな一歩になると思います」

かな手ぶたえを感じています。
農繁期が異なる産地との連携
九州から働き手を確保

サクラランボの生産量日本一を誇る山形県では、収穫がピークを迎える6月中下旬、毎年、労働力の確保が課題となっています。そこで、山形県本部や山形県などで組織する山形県農業労働力確保対策協議会は今年、農林水産省の「農業労働力産地間連携等推進事業」を活用。福岡県や大分県など、農繁期の異なる九州ブロックから働き手呼び込みました。計40人の参加者が

山形県に1週間ほど滞在し、サクラランボの収穫作業などに従事しました。

事業実施体制としては、山形県本部が、作業委託を希望する県内生産者の取りまとめや農作業受委託契約事務の代行など、全体のコーディネート役を担当。そして、JTBが働き先の園地の調整や、参加者の日雇い雇用契約の締結、交通手段や宿泊場所を手配した他、(株)菜果野アグリ・(株)菜果野アグリ福岡が、大分県・福岡県での農作業受委託事業の経験を生かし、参加する人材を募集しました。

終了後に実施したアンケートでは、参加者・生産者ともにこの取り組みを評価する意見が多数を占め、事業継続を希望する声も多く見受けられました。また、この取り組みをきっかけに、参加者の県産サクラランボ購入意欲が向上する傾向が見られました。

JA全農山形×JTB×JAL
企業単位での参加も可能に
農業を通じた観光PRや産地の活性化、地方創生を目指した取り組みの方向性が一致したことから、山形県本部、JTB、日本航空(JAL)の3者連携が実現。また、この連携によって、企業単位での農業労働力支援への参加が初めて行われました。

間にわたってサクラランボの収穫や選果・箱詰め作業に従事しました。これまでの取り組みでは、参加者個人がJTBと雇用契約を締結していましたが、今回は、農作業を請け負ったJTBがJALと業務委託契約を締結。これにより、JAL社員は副業などとしてではなく、業務の一環として参加することができました。

副業の制度が整備されていない企業でも農業労働力支援に参加できるとして、山形県本部では今回をモデルケースに、新たな連携体制を構築し、取り組みの拡大を目指しています。

プロフェッショナルを追う (9)

JA全農営農・技術センター農産物商品開発室 大内晴生さん おおうち はるき

先のニーズを見据え品種開発 種子の維持にも取り組む

全農グループには専門的な事業に従事している職員がいます。今回はJA全農営農・技術センター農産物商品開発室の大内晴生さんに迫ります。

【広報・調査部】



圃場で水稻の生育を確認する大内さん

——キャリアについて教えてください。

大学では植物の開花に関する遺伝子について研究していました。2019年に入会し、農産物商品開発室に配属されました。



水稻の穂の長さを計測する大内さん

——農産物商品開発室とは？

国産農畜産物の生産維持や消費拡大のために、生産から販売まで一貫した商品開発と、省力化・低コスト化を実現する生産技術の研究・開発に取り組んでいます。新しい栽培技術や有望品種を検討する「栽培チーム」と、生産した農畜産物の分析をもとに技術開発・商品開発を行う「食品分析チーム」があり、私は栽培チームで水稻の品種開発に携わっています。

——主な仕事は？

多収業務用米の品種開発と、原原種の維持です。品種開発では、「はるみ」のような当研究室で開発した良食味米品種の育成もありますが、主に農研機構や民間企業が開発した有望な多収業務用米品種の栽培性について評価を行い、品種・系統の選抜をしています。また、選抜した品種・系統を普及地域で栽培できるかの地域適応性評価試験も行っています。他にも選抜した品種・系統の小規模な試験栽培も行っていて、適切な移植時期や追肥のタイミングなども調査しています。

——原原種の維持とは？

原原種をもとに種子生産者は

種子を生産し、生産者へ供給しています。原原種がなくなってしまうと、数年後その種子の供給ができなくなる可能性があるのので、純粋な種子を維持・管理する必要があります。当研究室では全農が推進している「はるみ」や多収米を含めた5品種の原原種について維持・管理しています。原原種維持には通常とは異なる栽培管理が必要であり、コンタミ（異品種の混入など）や異株、施肥量にも気をつけなければいけません。品種開発と原原種の維持・管理は切っても切れない関係なので、品種開発のときには両方とも考える必要があります。

——心がけていることは？

品種開発は一般的に5年から10年先の情勢を見据え、どういう品種が必要か考えながら開発していくことになります。気候変動のほか、新型コロナの流行など突発的なこともあるのでなかなか難しいですが、社会情勢や消費動向なども日々チェックするようにしています。全農は研究・開発するだけでなく、生産者へ普及する立場にもあるので、そのときのニーズに合った、生産者に喜んでもらえるような品種を開発できればと考えています。



園芸土壌の現地研修をする職員

20周年記念品とさまざまな広報媒体



20周年記念品とさまざまな広報媒体
た、営農経済渉外員による担い手農家を中心とした訪問活動を強化

JA東西しらかわは、福島県中央南に位置し、白河市表郷、矢吹町（三神地区を除く）、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村の6市町村からなり、2001年に7JAが合併し誕生しました。

管内は地アユのすむ清流として名高い久慈川や、東北を縦貫する阿武隈川にそそぐ杜川の地域で、標高差は500m。平地と中山間地と

農家所得の増大に向けて 営農指導の技術力向上

営農指導若手職員の基礎知識の向上と栽培技術習得を目的に、営農指導員講座への積極的な参加やJA独自の研修会を実施しています。営農アドバイザーを招いて実際に圃場（ほじょう）に出向き、園芸土壌の性質について学ぶ現地研修を行っています。また、営農経済渉外員による担い手農家を中心とした訪問活動を強化

の気候の違いを生かし、主に水稲、トマト、キュウリ、インゲン、イチゴなどの農作物や畜産業が盛んです。

農家組合員に寄り添う事業を展開しています。

農業とJA運動の理解へ
広報や情報発信を多彩に

化しています。農家組合員の若年層就農者勉強会を開き、病害虫防除や栽培技術向上に向けて学ぶ機会を設け、農家組合員に寄り添う事業を展開しています。

広報誌「かがやき」は毎月約6000部発行し、22年1月で250号を迎えました。各事業や直売所のイベント情報をはじめ、「かがやきNEWS」コーナーで各地域の取り組みを紹介、読者の俳句を掲載するなど、紙面が交流の場となるよう「みりよく」ある情報を発信しています。20年に20周年を迎え、昨年「創立20周年記念誌」を作成し、組合員へ記念帽

みりよくある農畜産物を クロスメディア広報でPR

JA東西しらかわ (福島県)



概要 (令和4年2月末現在)	
正組合員数	5518人
准組合員数	4128人
職員数	234人
販売品取扱高	41億8千万円
購買品取扱高	22億1千万円
貯金残高	612億円
長期共済保有高	2566億7千万円
主な農畜産物	米、トマト、キュウリ、ニラ、インゲン、イチゴ、肉牛、和牛

子と共に配布しました。

20年1月からは、新たに准組合員向け広報誌「かがやきフレンズ」の発行をスタート。年に2回、各事業所やオリジナルブランド「みりよく満点」を紹介し、自己改革の取り組みなど親しみをもって読んでもらいたいという思いで発行しています。

また、JAを気軽に知ってもらうようなインスタグラムで公式アカウント開設し、身近な出来事や広報誌面の一部を紹介しています。

「コミュニティ誌で
農産物直売所のPR」

JA農産物直売所「みりよく満点物語」が開催する年に2回の大イベントに合わせて、コミュニティ



勉強会に参加する若手農家と職員

誌を各新聞折り込みで約1万7000部発行しています。地域の方にもJAを身近に利用していただけるよう、各種イベントの内容や併設する「旬彩レストラン山ぼうし」のおすすめメニューやテイクアウトメニューを紹介し足を運んでいただくきっかけとなっています。

これから「みりよく」ある農畜産物と作り手にスポットをあて、さらなる充実したクロスメディアスタイルを展開しPR・消費拡大に取り組んでいきます。

未来の卓球日本代表が集結!



全農杯2022年全日本卓球選手権大会(小学生以下の部)に特別協賛

全農は7月28~31日、兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸で開催された「全農杯2022年全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)」に特別協賛し、出場選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。

【広報・調査部】

各都道府県予選を勝ち抜いた卓球少年・少女たち979人が集結し、ホープス(小学6年生以下)、カブ(同4年生以下)、バンビ(同2年生以下)の各部門の頂点を競いました。29日(男子)には池田幸夫参事より、31日(女子)には安田忠孝専務より、1位から3位までの選手に全国の人気・話題の銘柄米を月替わりでお届けする「日本を食べよう『銘柄米』コース」と、徳島県産スダチを使用した飲料「徳島すだち微炭酸」を贈呈しました。

また会場では、全農所属の石川佳純選手が出演している全農の新CM「つながる食卓」をモチーフにしたフォトスポットの設置やクイズ企画などを実施。クイズの参加者には全農の商品ブランド「ニッポンエール」の「神奈川県産湘南ゴールドグミ」をプレゼントしました。



安田専務から女子選手へ副賞を贈呈



池田参事から男子選手へ副賞を贈呈



クイズ企画に参加する選手たち



新CMの最後のシーンを再現したフォトスポット

副賞一覧

賞名	賞品
優勝	日本を食べよう「銘柄米」コース120kg(10kg×12カ月)
	徳島すだち微炭酸250ml×1ケース
2位	日本を食べよう「銘柄米」コース60kg(5kg×12カ月)
	徳島すだち微炭酸250ml×1ケース
3位	日本を食べよう「銘柄米」コース30kg(5kg×6カ月)
	徳島すだち微炭酸250ml×1ケース
フェアプレー賞	徳島県産すだち使用「ザすだち」×1ケース
	石川佳純選手直筆サイン色紙



かが・のと味自慢

「赤くて日本一大粒のブドウを作りたい!」。ブドウ農家の一途な思いから、14年の歳月を費やして完成した石川県産のブドウ「ルビーロマン」。今年は市場デビューから15年目です。国内では百数十種類のブドウが栽培されていますが、数少ない赤色の大粒品種。「ルビーロマン」には粒の大きさや糖度、房の重量など厳しい基準が設けられ、クリアしたものだけがその名を名乗ることができます。

宝石のような赤色の果実は酸味が少なく高糖度。果汁も豊富で口いっぱいに広がる爽やかな甘みをご堪能いただけます。



ルビーロマン 赤色の大粒ブドウ 秀 大房(700g以上)
×1房 化粧箱入り...1万3500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
8月22日号は休刊いたします。
次は8月29日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。